



Rotary Weekly

広島空港ロータリークラブ週報

2021年2月3日発行

ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度

国際ロータリーテーマ

会長 伊藤 保 / 副会長 河井一朗 / 幹事 兼田昌紀 / SAA 橋濱智美

事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階

TEL 0848-86-0986 ・ FAX 0848-86-0992 ・ E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp

例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

2月 1 2 **3** 4 5 6 7 8 9 **10** 11 12 13 14 15 **16** **17** 18 19 20 21 22 **23** **24** 25 26 27 28
休会 休会 4クラブ合同例会中止・休会 休会

第1200回 2021年1月20日 新年例会記録

(広島エアポートホテル 12:30~12:50)

会長時間

クリスマス例会どころか新年の挨拶もできない状況になってしまいましたが、やはりけじめとしてさせていただきます。

明けましておめでとうございます

私の会長年度もあと半年となりました。
どれだけの活動ができるか わかりませんが、ご協力
よろしく願いいたします。



広島県は新型コロナウイルス感染防止集中対策の期間を2月7日まで延長しました。
感染者の数によってはさらなる延長も考えられます。世の中では、感染の抑制を優先するか経済活動を優先するかといった議論をはじめ、さまざまな意見があると思います。

ロータリークラブはどのようにすればいいのか？これもクラブによって違いがあるようです。
私は、脇ガバナーの「楽しくなければロータリーではない」という言葉を実践したいのですが、その前に「健康であること」が大前提だと思っています。ロータリアンは、感染した場合に重症化率の高い、高齢者が多くいます。私も、一昔前ならとっくに定年退職していた年齢です。
まずは、自分や家族の健康を守ることに専念しましょう。

もし、このコロナ禍が終わらないことがわかっているのであれば、制限などせず自由に楽しい生活を楽しむでしょう。

しかし、必ずコロナは終息します。だから今は辛抱の時です。

高くジャンプするには低くしゃがまなければいけません。

コロナが終息したときに、それまでよりもさらに飛躍するための

準備期間として捉えたいと思います。



点 鐘 伊藤会長
国歌斉唱 ロータリーソング「四つのテスト」

出席報告

	会員数 名誉会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (1/20)	28 2	16 0	2	5 5	78.26
メイク	河井・大下				
前々回 (12/9)	28 2	19 0	3	3 3	88.00
メイク	鶴田幸彦・鶴田秀樹・河井				

幹事報告

《配布物》週報1199号、ロータリーの友、
ガバナー月信、地区活動報告書
《回覧》年賀状
三原RCより 2/16 開催の4クラブ合同
例会中止のお知らせ
(新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

卓話時間

「年男の弁」



兼田 昌紀 会員

昭和48年生まれで今年48歳になるという何とも縁起が良い年で今年は、良い事が起こりそうな予感がしております。今年の干支の丑年とは、丑という字は、手の指先に力を入れて、強くものを捉える形の象形文字。十二支では、動物の牛があてられ、各地に物語や玩具が残されており、人々の生活に重用され愛されてきたことが窺えます。牛の着実な歩みと底力は、スピード社会といわれる現代に生きる私達に、大切なものを思い出させてくれます。疫病や天災を乗り越え、牛歩の歩みのように一步一步堅実に何かを掴み捉えるようにとありました。

私自身、年始早々仕事に関して色々難問を抱え、早くもバテ気味となっております。幸先不安な年の始まりではありますが、これも自身に課せられた使命と思い、牛のようにゆっくり、確実に邁進したいと思います。

プライベートでは、妻と結婚生活20年目突入。長女が看護学校の専攻科に進級。次女が高校受験後、進学。三女が小学3年生。長男の犬が満一歳となりました。生活は安定してはいますが、何かとお金のかかる時期に入っております。まだまだしっかり稼がないといけませんので、色んなことに挑戦してまいりたいと思います。

ロータリークラブでは、幹事という大役を任せながら新型コロナウイルスの感染拡大によってイベントや行事ごとがごとごとく中止となり、大変心苦しく思っております。任期もあと半年となり、今後何ができるかわかりませんが最後まで気を引き締めた努めてまいりたいと思います。

年男 兼田の今年の動向に乞うご期待！！と宣言して自身の糧にして奮闘してまいります。今年もよろしくお願い申し上げます。

例会終了 12:50 お弁当持帰り

「年男の弁」



益谷 昌治 名誉会員

今年は丑年で7回目の年男を迎えた。「丑」の文字に二千二十一があることから、令和3年(2021)は丑の中でも特別な年だと言われている。牛は一步一步着実に歩むことから蓄財、開運の象徴とされており、私にとっては今年が人生最大のチャンスになると期待している。昨年来のコロナ禍の中で、外出自粛と巣籠りに徹した生活から早く解放されたいとも願っている。

ことわざ「今日は人の身、明日は我が身」とあるように、今日は他人にふりかかった災難が、明日は自分にふりかからないとは限らない。細心の注意と用心に心がけて、コロナに負けない生活を過ごしたいと思っております。



河井 一朗 会員

「昭和48年丑年は癸牛(みずのとうし)この生まれの人は索牛といい、車などを素く労働的な使命をもった牛です。労が多く効の少ないことが多い。束縛も多く自由が少ない。身体は壮健で勤勞的生活の結果、50才位から安定した生活となります。」

気が付けば48歳となり、自分の生まれた丑年について調べてみました。記載の通り、振り返れば苦勞ばかり？いや若かりし頃は苦勞ばかり掛けて来た側なのでその報いです。今一つ効果の出ない人生である様に思えます。50歳位から安定したいと誰もが思う事ですが苦勞は絶えず会社の体制も未だ整わず安定した生活には程遠い気がします。可能であれば55歳くらいで引退したい・・・。今年は年男でもありますが息子は就職、娘は受験、妻は60歳と家族にとっても大きな節目の年となります。事業においてはコロナウイルスに翻弄され大きな影響も考えられますが、干支の特徴でもある「粘り強さ」を最大限発揮できる様しっかりと地に足をつけ家族や社員、周りの方々と共に一歩ずつ進みたいと思います。